

# ◆2026年度 中学入試 第2回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	91.3%	93.7%	整数、小数、分数の四則演算 計算の工夫 逆算	(2)が想定に反して、正答率が低かった。基本計算の中でも「計算の工夫」は練習が不足しているため、今後も出題したほうが良いと思われる。
	(2)	69.3%	78.4%		
	(3)	89.5%	90.5%		
	(4)	91.5%	93.2%		
2	(1)①	71.9%	84.2%	個数(割合)の基本	想定よりも正答率が低くなった。全体の割合を考える際に文字式のような考え方をするためだと思われる。
	(1)②	47.6%	68.0%		
	(2)①	91.5%	97.3%	速さ(距離・時間)の基本	電車の通過の問題は受験者・合格者ともに正答率が高かった。
	(2)②	88.2%	94.6%		
	(3)①	89.9%	91.9%	速さ(和・差)の基本	川の往復の問題も受験者・合格者ともに正答率が高かったが、②で15p程度の差がついた。
	(3)②	71.1%	85.6%		
	(4)①	93.6%	99.1%	損益算の基本	川の往復の問題も受験者・合格者ともに正答率が高かった。
	(4)②	69.7%	81.5%		
	(5)①	91.3%	96.8%	濃度(割合)の基本	②の正答率が受験者と合格者で15p程度の差があり、合否の分かれ目となった。
	(5)②	41.2%	56.3%		
(6)①	85.6%	95.9%	図形(角度)の基本	②の正答率が受験者と合格者で15p程度の差があり、合否の分かれ目となった。	
(6)②	59.0%	75.2%			
3	(1)	83.7%	94.1%	速さ・最小公倍数の応用	(2)の正答率が受験者と合格者で15p以上の差があり、合否の分かれ目となった。
	(2)	42.7%	60.4%		
4	(1)個	86.6%	92.8%	規則性の応用	(1)②,(2)は変化する図形の面積・辺の長さの関係を見抜く問題で、試験時間内に処理するのが難しかったことが予想される。難易度はCレベルが妥当であった。
	(1)倍	24.8%	39.0%		
	(2)	20.4%	31.5%		
5	(1)	84.3%	91.9%	平面図形(線対称な図形)の応用	いくつかの条件によってできる図形を正確に把握できるかどうか为正解のカギとなった。教科書の用語の理解も必要で、地に足の付いた学習ができているかどうかを試された。
	(2)	38.4%	54.1%		
	(3)	20.0%	32.4%		
6	(1)	44.2%	66.5%	グラフの見方 底面積・体積の応用	(1)で20p以上の差が付いた。試験時間内に最後の大問まで取り組むことができたかどうかで差が開いたと考えられる。
	(2)	31.7%	40.1%		
	(3)	8.2%	14.0%		